

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年7月18日(日)第三主日礼拝  
週報「通算第566号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌397「神の御子にますイエス」 p. 636

【交読文】 No.9詩篇第27篇 p. 885

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」 p. 690

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き10章9節～16節(新約p. 253上段)

【礼拝説教】 《シモン・ペテロの見たまぼろしとは?》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(使徒の働き10章9節～16節)

10:9 翌日、この人たちが旅を続けて、町の近くまで来たころ、ペテロは祈るために屋上に上った。昼の十二時ごろであった。

10:10 彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。ところが、人々が食事の用意をしているうちに、彼は夢心地になった。

10:11 すると天が開け、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来るのが見えた。

10:12 その中にはあらゆる四つ足の動物、地を這うもの、空の鳥がいた。

10:13 そして彼に、「ペテロよ、立ち上がり、屠って食べなさい」という声が聞こえた。

10:14 しかし、ペテロは言った。「主よ、そんなことはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません。」

10:15 すると、もう一度、声が聞こえた。「神がきよめた物を、あなたがきよ

くないと言ってはならない。」

10:16 このようなことが三回あってから、すぐにその入れ物は天に引き上げられた。

### ●ポイント1. 「神様が言われた食べてはならないきよくない動物」とは？

#### ※申命記14章3節～8節「忌み嫌うべきものとは？」 (旧約p.340下段)

14:3 あなたは忌み嫌うべきものは、どのようなものも食べてはならない。

14:4 あなたがたが食べてもよい動物は牛、羊、やぎ、

14:5 鹿、かもしか、のろ鹿、野やぎ、くじか、大鹿、野羊。

14:6 ひづめが分かれ、完全に二つに割れているもので、反芻するものはすべて食べてもよい。

14:7 ただし、反芻するもの、あるいは、ひづめが分かれているものの中でも、らくだ、野うさぎ、岩だぬきは食べてはならない。これらは反芻するが、ひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。

14:8 豚もそうである。ひづめは分かれているが、反芻しないので、あなたがたには汚れたものである。それらの肉を食べてはならない。また、それらの死骸に触れてもいけない。

### ●ポイント2. ペテロが経験した「三度」とは？

#### ※マタイの福音書26章34節「最後の晩餐において」 (新約p.443下段)

26:34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度私を知らないと言います。」

#### ※ヨハネの福音書21章17節「ガリラヤ湖畔において」 (新約p.230上段)

21:17 イエスは三度目もペテロに、「ヨハネの子シモン。あなたは私を愛していますか」と言われた。ペテロは、イエスが三度目も「あなたは私を愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなただを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「私の羊を飼いなさい。」

### ●ポイント3. 「神がきよめたもの」とは？

#### ※使徒の働き15章6節～14節「第一回教会会議にて」 (新約p.265上段)

## ◎先週のメッセージの概要【カイサリアのコルネリウス】

《カイサリアとは、パレスチナの地中海沿岸にある都市で、ここにはローマ総督が駐在し、ローマ軍イタリア隊が駐屯していました。イタリア隊とは、イタリアで召集された600の兵力を持つエリート部隊で、その百人隊長の一人がコルネリウスです。彼はユダヤ教徒でした。しかも彼の家族全員が信仰を持っていたのです。彼は多くの施しを民に行なっていました。

コルネリウスが、午後、祈っていると、御使いが現われました。「コルネリウス。あなたの祈りと施しは神の御前に上って、覚えられています。」

この言葉は、まさしく私たちをも元気づけます。詩篇には、『確かに神は聞き入れ、私の祈りの声に耳を傾けて下さった。』と書かれています。

神様は、私たちの祈りを聞いて下さるのです。たとえ、どんなに小さな願いであっても、その祈りは神様の御もとに届いているのです。そして、「施し」さえも覚えられています。ヘブル書の著者はこう述べています。

『神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れてたりなさいません。あなたがたは、聖徒たちに仕えることによって、神の御名のために愛を示しました。』と。すなわち、私たちが誰かの為にしたことは神様に覚えられており、また決して忘れてはならないと言うことです。

神様は、コルネリウスの祈りを聞き届けられました。御使いは続けます。『さあ今ヨッパに人を遣わして、シモン・ペテロという人を招きなさい。その人は、シモンという皮なめし職人の所に泊まっています。その家は海辺にあります。』と。そこでコルネリウスは、しもべ二人と、彼の側近の部下一人をヨッパに遣わしたのです。ルカは、コルネリウスの救いの出来事において、多くのページを割いています。なぜなら、この事が発端となって、イエス・キリストの福音が異邦人に開かれることになるからです。

「神の時」があります。祈りが聞かれる為には、ペテロがヨッパに遣わされ、皮なめし職人の家に滞在する必要があったように。私たちがすべきことは、まず神様に感謝を捧げること、そして「神の時」を待つことです。》

## ◎お知らせ

※次回第四主日礼拝は、平常通り7月25日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、7月21日(水)各家庭において行ないます。